



令和 8 年 9 月 28 日
農林水産部鳥獣被害対策支援センター

【堅果類豊凶調査・確報】

今秋、ブナとクリは豊作であり、ミズナラ、コナラ、オニグルミは並作です。

奥山のブナ等の木の実（堅果類）の豊凶が、人里へのツキノワグマの出没に影響することから、県では、毎年、ブナ等の堅果類の豊凶調査を実施しています。

今秋の堅果類の調査結果（確報）は、別紙のとおり、ブナとクリは県全体で豊作であり、ミズナラ、コナラ、オニグルミは並作です。

一方、依然としてツキノワグマの出没が確認されているため、特にきのこ狩りや秋の行楽での入山などクマの生息域に近づく場合は、引き続き、被害に遭わない行動を徹底してください。

- 地域のクマ目撃情報を確認し、クマのいるところには近づかない

参考：県ホームページで最新の出没情報を提供しています

「にいがたクマ出没マップ」

<https://www.arcgis.com/apps/dashboards/20b4d06fb3b34776959a4e69c7a8511a>

- 複数人で行動し、ラジオや鈴など音の鳴るものを携行しましょう
- クマの活動が活発な早朝や夕方の入山は避けましょう
- クマのエサとなる生ゴミや不要となった農作物は適切に処分し、柿などの放任果樹は除去しましょう



本件についてのお問い合わせ先

鳥獣被害対策支援センター

副所長（環境対策課長）：鈴木

（直通）025-280-5153 （内線）2710

別紙

令和 8 年度堅果類の豊凶調査結果（確報）

1 調査方法

- (1) 調査地域 佐渡島及び粟島を除く県内全域
- (2) 調査時期 令和 8 年 8 月 1 日～8 月 31 日
- (3) 調査樹種 ブナ、ミズナラ、コナラ、クリ、オニグルミ
- (4) 調査地点 232 地点
- (5) 調査方法 調査員が目視で確認

2 豊凶調査結果

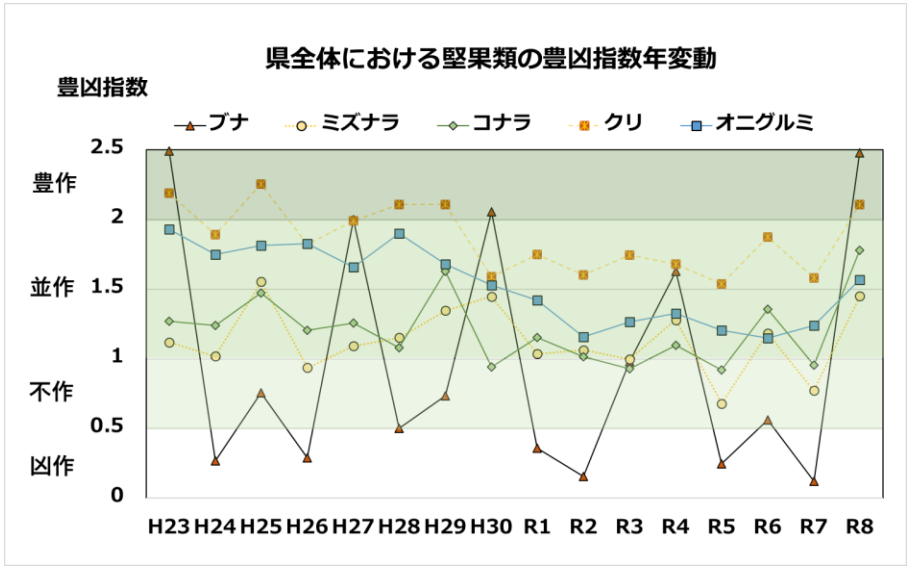
調査の結果、主に奥山に分布しているブナは県全体で豊作、ブナより人里近くに生育するクリは豊作、ミズナラ、コナラ、オニグルミは並作でした。

【今秋の堅果類の豊凶調査結果】

地域	全体	上越	魚沼	中越	下越
ブナ	豊作	豊作	豊作	豊作	並作
クリ	豊作	並作	豊作	豊作	豊作
ミズナラ	並作	不作	豊作	並作	並作
コナラ	並作	並作	豊作	並作	並作
オニグルミ	並作	不作	並作	並作	並作

- ・ 豊作：樹冠全体に密に結実
 - ・ 並作：樹冠全体にまばらに結実、又は一部に結実
 - ・ 不作：わずかに結実
 - ・ 凶作：結実は認められない
- 調査期間：R8. 8. 1～R8. 8. 31
調査地点：232 地点

* 豊凶調査結果の詳細はホームページ参照
(<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kankyotaisaku/1319666477310.html>)



<新潟大学 箕口秀夫名誉教授のコメント>

これまで 15 年間継続して新潟県が実施してきた結実豊凶調査およびクマ目撃・痕跡報告の結果をふまえ、今年の県下の堅果類の結実豊凶から秋季および初冬におけるクマ出没の傾向は次のように予測することができます。

5 樹種の豊凶指数の大小とその樹種バランスから、今年は平成 23 (2011) 年、平成 27 (2015) 年ととてもよく似た結実パターンでした。さらに平成 30 (2018) 年、令和 4 (2022) 年とも同様の結実パターンでした。これらの年の特徴はブナの豊凶指数が 1.5 以上で豊作もしくは並作であったことです。そして、これらの年の秋季は、4 月～8 月の春・夏季よりも出没が少なくなり、クマ大量出没年にはなりませんでした。また、初冬 (12 月) も秋季の出没が少なかったことを反映してわずかに出没する程度でした。

したがって、今年の秋季、初冬の人里、市街地へのクマの出没は、昨年およびこれまでの大量出没年と比較すると、かなり限定的になると予測されます。ただし、クマの出没が皆無になるわけではありません。過去 6 回の大量出没を経てクマの生息域がより人里・市街地に近い場所まで拡大しています。また、クマの目撃・痕跡報告件数が春・夏さらに秋季平常出没年においても年々増加傾向にあります。そのため、これまでの大量出没年でなかった年と比較して多くのクマが出没する可能性は否定できません。また、件数は少なくなるかもしれませんが、初冬にはカキ、ギンナンなどの果樹や収穫残渣さらには生ゴミなどを求めて人里に出現する可能性がなくなったわけではありません。この可能性を低減させるためには、私たちの普段の生活域からクマを惹きつける要因を徹底的に除去しなければなりません。人里や市街地への出没に対するリスク管理、危機管理の意識を再確認する必要があります。

一方、魚沼や上越の頸城に代表されるように、新潟県の中山間地では集落周辺の里山林にも奥山同様、ブナが広く分布、優占しています。そのため、ハイキング、キノコ採りなどの行楽に際しては、十分な注意、対策をする必要があります。

なお、ここまで今年の秋季、初冬のクマの出没についてブナが全県的に大豊作であることを軸に予測しましたが、最後に、今年の結実豊凶から予測できる来年の傾向について検討します。非常に高い確率で予測できる来年の事象は 2 つあります。ひとつは、ブナが凶作になること。もうひとつは、冬眠期間中に子グマがたくさん産まれることです。これら 2 つの事象は、その年がクマ大量出没年となる引き金であり、特徴です。

具体的に、今年の新潟県における堅果類の結実豊凶を樹種毎、地域毎に確認すると

- ブナは、全県の豊凶指数が 2.48（豊作）と、これまでの豊凶調査で最も高かった平成 23(2011)年の 2.49 とほぼ同値で 15 年振りの大豊作年です。全県で調査した 1,505 本のうち 1,292 本（85.8%）が豊作または並作でした。地域別では、特に魚沼で 2.80 と結実が確認されなかった個体はほぼ皆無でした。また、最も豊凶指数が小さかった下越が 1.97 で、中越と上越ではそれぞれ 2.64、2.09 でした。新潟県全域押し並べてブナ豊作といえますが、大豊作の中越、魚沼と豊作の下越、上越とわずかながら地域差もあります。
- ミズナラは、全県の豊凶指数が 1.45（並作）で、並作とはいえブナ同様、過去 2 番目に大きな豊凶指数です。地域別では、上越だけが 0.79（不作）で他 3 地域と比較して著しく小さくなりました。一方、魚沼では 2.08 と、ブナ同様、地域間で最もよい作柄で中越、下越がそれぞれ 1.80、1.62 とつづきます。全県で令和元(2019)年から昨年までの 7 年間は不作と並作の中間程度の作柄が続きましたが、久しぶりの良い作柄といえます。ただし、ここ数年におけるナラ枯れによる枯死個体の増加が全県的に報告されています。ナラ枯れでは結実量が多い大径木が枯死します。そのため、豊凶指数による結実の「質」だけでは評価できない餌資源としての「量」そのものの減少が危惧されます。
- コナラは、全県の豊凶指数が 1.78（豊作に近い並作）で、これまでで最もよい作柄です。地域別では下越、魚沼がそれぞれ 1.90、2.00 とほぼ豊作、豊作でしたが、中越、上越がそれぞれ 1.48、1.50 と中程度の並作です。全県的に良い作柄ですが、地域的には並作地域と豊作地域に 2 区分されそうです。なお、ミズナラと比較すると枯死率は低いもののナラ枯れ被害が発生しています。また、ミズナラも同様ですが、ドングリ類は 7 月から 9 月にかけて堅果を急激に成長させるため、この時期に猛暑・乾燥、台風による強風などの悪い気象条件が重なると成長不良、小さな未熟な段階での堅果落下など、豊凶指数だけでは評価できない餌資源としての劣化が発生します。
- クリは、全県の豊凶指数が 2.11 と豊作です。地域別では 5 樹種の中で最も地域格差が小さく、4 地域すべてで 2.0 前後の並作～豊作です。
- オニグルミは、全県の豊凶指数が 1.57（並作）です。ただし、他の樹種が過去と比較してよい作柄であったのに対し、オニグルミは中程度の作柄でした。地域別では、ミズナラ同様、上越が 0.99（不作）と他地域に比べて小さく、唯一、不作の地域となっています。